

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月24日現在

機関番号：17601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520379

研究課題名（和文）アフリカのエイズ問題改善策：医学と歴史、雑誌と小説からの包括的アプローチ

研究課題名（英文）A discourse on AIDS in Africa; A holistic approach from history and medicine, journals and stories

研究代表者

玉田 吉行 (TAMADA YOSHIYUKI)

宮崎大学・医学部・教授

研究者番号：80207232

研究成果の概要（和文）：

三つの成果がありました。①性感染症でもあるために、アフリカのエイズの状況がかなり複雑で、危機的になっているのが再認識された、②免疫不全の病気と戦うためには病気をより広い観点から捉える必要があるのを再確認した、③利益を最優先し、多剤治療一辺倒の先進国や製薬会社が報道を恣意的に操って来たために、先進国ではアフリカのエイズの誤ったイメージが定着しているのを再認識した、ことです。それらを活字にしました。

研究成果の概要（英文）：

I've got three fruitful results. I have once again noticed that ①AIDS, one of the STDs, has brought complicated crises in Africa, ② in order to cope with immunodeficiency we should have broader views of the disease, ③negative images of AIDS in Africa are mistakenly prevalent in the advanced countries through dominance of mass media by some rich states and big U.S. and European pharmaceutical companies. I've put them in print.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：アフリカ文学

1. 研究開始当初の背景

アフリカ系アメリカ人の文学がきっかけでアフリカの歴史を追って30年近く、医科大学に来て医学にも目を向けるようになって20年余り、その結論から言えば、アフリカとアフリカのエイズ問題に根本的な改善

策があるとは到底思えません。なぜなら、英国人歴史家バズル・デヴィドソンが指摘するように、根本的改善策には大幅な先進国の譲歩が必要ですが、現実には譲歩のかけらも見えないからです。しかし、学問に役割があるなら、大幅な先進国の譲歩を引き出せなくても、小幅でも先進国に意識改革を促すよう

な提言を模索し続けることでしょう。たとえ僅かな希望でも、ないよりはいいのでしょうから。

Raymond Downing は著書 *As They See It - The Development of the African AIDS Discourse* (London: Adonis & Abbey, 2005) の中でアフリカ人との対話を力説しています。Downing はアメリカ人の医師ですが、アフリカでの生活の方が長く、日々エイズ患者と向き合っています。欧米の抗 HIV 製剤一辺倒のエイズ対策には批判的で、病気を社会や歴史背景をも含む大きな枠組みの中で考えるべきで、そのためには大半のメディアを所有する欧米の報道を鵜呑みにせず、南アフリカの前大統領ムベキが提起する問題や、アフリカ人が執筆する雑誌 *New African* やアフリカの小説などを手がかりに、アフリカ人の声に耳を傾けるべきだと主張しています。Raymond 医師の提言は、アフリカで長年医療に携わった経験に裏付けられた貴重なもので、後半部分に紹介されているアフリカ人の小説は、歴史や小説と長年向き合ってきたアフリカ文学の分野にいる私たちが、その提言を受けて発展させるべき領域で、私は *New African* とアフリカの小説を手がかりに、エイズ問題の改善策を考えたいと思いました。

2. 研究の目的

研究目的は、エイズを発症させるヒト免疫不全ウイルスの構造や機能を含む医学的な知識と、1505 年のキルワの虐殺以来、形を変えてアフリカを食いものにしてきた先進国の歴史を踏まえたうえで、病気の原因（ウイルス）には抗 HIV 製剤をとという先進国で主流の生物医学的なアプローチによってではなく、病気をもっと広い観点から包括的に捉える公衆衛生的なアプローチによって、現在のアフリカのエイズ問題を改善する方策を探ることです。

3. 研究の方法

ケニアの雑誌 *New African* と、ジンバブエ、ケニア、南アフリカなどの英語によるアフリカ人の小説を読み解くことによって、エイズ問題の本質を探り、医学と文学の狭間からみたエイズ問題改善に向けての提言のひとつでも導き出すことです。（改善策の前提は先進国の経済的な譲歩ですが、その譲歩を引き出すためには、加害者側の意識をたとえ僅かでも変えていかなければなりません。意識を変えるためにも、当事者のアフリカ人の声に耳を傾ける必要がありますから。）

4. 研究成果

アフリカのエイズを包括的に捉えるために、雑誌や小説からアフリカ人の声を聞き、エイズ問題を改善する方策を探りましたが、三つの大きな成果があったと思います。

一つ目はエイズが免疫不全症候群だけでなく、性感染症でもあるために、かなり複雑で危機的な状況をもたらしているということが再認識されたことです。病気の流行は性に対する考え方によっても大きく影響を受けるために、病原体である HIV に薬で対抗するだけでは根本的な解決策は見つからないということです。その点では、Wamugunda Geteria の *Nice People* は、治療にあたるべき医者もエイズに感染して極めて危機的な状況にあるという側面が描かれていて興味深い小説です。Meja Mwangi の *The Last Plague* も性感染症であるために複雑な社会状況を生み出している点や人々の生活や意識を映し出している点で面白い作品で、その二つの作品とケニアの社会的、政治的な状況をからめて "Human Sorrow:—AIDS Stories Depict An African Crisis—" にまとめました。Wamugunda Geteria の *Nice People* の日本語訳もメールマガジンに連載しました。

二つ目は、免疫不全の病気と戦うためには、免疫力を低下させる根本原因である貧困や栄養不良などの要因を考える必要がある、つまりウイルスを撃退する抗 HIV 製剤だけを強調する欧米や日本の対応では実際には根本的な解決策は見つからず、病気をもっと広い観点から捉え必要性を再確認したということです。

「タボ・ムベキの伝えたもの：エイズ問題の包括的な捉え方」「ESP の研究と実践」(第 9 号 30-39 ページ 2009 年 3 月 30 日) でまとめ、「アフリカでのエイズの広がり」(「モンド通信」No. 14、2009 年 9 月 10 日)、「アフリカのエイズ問題を捉えるには」(「モンド通信」No. 15、2010 年 09 月 10 日)、「南アフリカとエイズ」(「モンド通信」No. 16、2009 年 11 月 10 日)、「エイズ治療薬と南アフリカ (1)」(「モンド通信」No. 17、12 月 10 日)、「エイズと南アフリカータボ・ムベキ (二) 育った時代と社会状況二 アパルトヘイト」(「モンド通信」No. 21、2010 年 4 月 10 日)、「エイズと南アフリカムベキの育った時代 (三) アパルトヘイト政権との戦い」(「モンド通信」No. 31、2011 年 3 月 10 日)、「エイズと南アフリカムベキの育った時代 (四) アパルトヘイト政権の崩壊とその後」(「モンド通信」No. 32、2011 年 4 月 10 日) をメールマガジンにも連載しました。

三つ目は意識の問題で、利益を第一に考える国や製薬会社がアフリカのエイズ報道を恣意的に自分たちの都合のいいように操って来たために、先進国では謝ったアフリカの

エイズのイメージが植え付けられている傾向があることを認識したことです。

『ニューアフリカン』から学ぶアフリカのエイズ問題(「ESPの研究と実践」第10号、2011年3月30日)にまとめ、「メディアと雑誌『ニューアフリカン』」「モンド通信」No. 33、2011年5月10日)、「雑誌『ニューアフリカン』」「モンド通信」No. 34、2011年6月10日)、『ニューアフリカン』:エイズの起源(1)アフリカ人にとっての起源の問題」「モンド通信」No. 38、2011年10月10日)、『ニューアフリカン』:エイズの起源(2)アフリカ人の性のあり方」「モンド通信」No. 39、2011年11月10日)、『ニューアフリカン』:エイズの起源(3)アフリカの霊長類がウィルスの起源」「モンド通信」No. 40、2011年12月10日)、『ニューアフリカン』:エイズの起源(4)米国産の人工生物兵器としてのウィルス」「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」No. 41(2012年1月10日)に連載もしました。

今回の研究の成果については、2011年11月26日にシンポジウム『アフリカとエイズを語る—アフリカを遠いトコロとと思っているあなたへ—』を開催し、「アフリカと私:エイズを包括的に捉える」の表題で発表し、シンポジウム報告書「アフリカとエイズを語る—アフリカを遠いトコロとと思っているあなたへ—」(56ページ)にまとめました。

「ニューアフリカン」で取り上げたかったAZTの副作用についてとエイズに関しての倫理的な問題については今後の課題です。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文・翻訳・報告〕(計47件)(すべて査読なし)

2009年度

- ① "Human Sorrow:—AIDS Stories Depict An African Crisis—" (「ESPの研究と実践」第8号12-20ページ、3月31日)
- ② 「(1)『ナイスピープル』とケニア」(「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」No. 9、4月10日)
- ③ 「(2) エイズとウィルス」(「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」No. 10、5月10日)
- ④ 「(3) 1981年—エイズ患者が出始めた頃(1)」(「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」No. 11、6月10日)
- ⑤ 「(4) 1981年—エイズ患者が出始めた頃

(2) 不安の矛先が向けられた先」(「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」No. 12、7月10日)

⑥ 「(5) アフリカを起源に広がったエイズ」(「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」No. 13、8月10日)

⑦ 「(6) アフリカでのエイズの広がり」(「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」No. 14、9月10日)

⑧ 「(7) アフリカのエイズ問題を捉えるには」(「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」No. 15、10月10日)

⑨ 「(8) 南アフリカとエイズ」(「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」No. 16、11月10日)

⑩ 「(9) エイズ治療薬と南アフリカ(1)」(「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」No. 17、12月10日)

上記のメールマガジン「モンド通信 (MonMonde)」に掲載された(1)～(21)は「玉田吉行の『ナイスピープル』を理解するために」にまとめてあります。

(<http://kojimatei.jp/wordpress/2011/11/23/%e7%8e%89%e7%94%b0%e5%90%89%e8%a1%8c%e3%81%ae%e3%80%8e%e3%83%8a%e3%82%a4%e3%82%b9%e3%83%94%e3%83%bc%e3%83%97%e3%83%ab%e3%80%8f%e3%82%92%e7%90%86%e8%a7%a3%e3%81%99%e3%82%8b%e3%81%9f%e3%82%81%e3%81%ab/>)

2010年度

論文

- ① タボ・ムベキの伝えたもの: エイズ問題の包括的な捉え方「ESPの研究と実践」第9号30-39ページ 2010年3月30日
- ② 「エイズと南アフリカ—タボ・ムベキ(二)育った時代と社会状況二 アパルトヘイト」(「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」No. 21(2010年4月10日)
- ③ 「エイズと南アフリカ—ムベキの育った時代(三) アパルトヘイト政権との戦い」(「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」No. 31(2011年3月10日)

総説・翻訳

- ① 「Wamugunda Geteria 著『ナイスピープル』(Nice People) 第16章 豚野郎フィル」(「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」No. 20(2010年4月10日)
- ② 「Wamugunda Geteria 著『ナイスピープル』(Nice People) 第17章 医師用宿舎B10」(「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」No. 21(2010年5月10日)
- ③ 「Wamugunda Geteria 著『ナイスピープル』

(*Nice People*) 第18章 ナイセリア菌
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」
No. 22 (2010年6月10日)

④ 「Wamugunda Geteria 著『ナイスピープル』
(*Nice People*) 第19章 花婿の値段」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 23 (2010年7月10日)

⑤ 「Wamugunda Geteria 著『ナイスピープル』
(*Nice People*) 第20章 四十年間の投獄」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」
No. 24 (2010年8月10日)

⑥ 「Wamugunda Geteria 著『ナイスピープル』
(*Nice People*) 第21章 一九七九年モン
バサ」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 25 (2010年9月10日)

⑦ 「Wamugunda Geteria 著『ナイスピープル』
(*Nice People*) 第22章 仮論文」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 26 (2010年10月10日)

⑧ 「Wamugunda Geteria 著『ナイスピープル』
(*Nice People*) 第二十三章 一匹狼の医者」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」
No. 27 (2010年11月10日)

⑨ 「Wamugunda Geteria 著『ナイスピープル』
(*Nice People*) 第二十四章 一九八二年」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」
No. 28 (2010年12月10日)

⑩ 「Wamugunda Geteria 著『ナイスピープル』
(*Nice People*) 第二十五章 一九八三年二
月・第二十六章 一九八四年一謎の病気」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 29 (2011年1月10日)

⑪ 「Wamugunda Geteria 著『ナイスピープル』
(*Nice People*) 第二十七章 男の赤ん坊」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」
No. 30 (2011年2月10日)

⑫ 「Wamugunda Geteria 著『ナイスピープル』
(*Nice People*) 第二十八章 カナーンホス
ピス」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 31 (2011年3月10日)

上記のメールマガジン「モンド通信 (MonMonde)」に連載された玉田吉行・南部みゆき訳『ナイスピープル』の抄訳(1)～(30)は「玉田吉行の『ナイスピープル』」にまとめてあります。

(<http://kojimatei.jp/wordpress/2011/11/23/%e7%8e%89%e7%94%b0%e5%90%89%e8%a1%8c%e3%81%ae%e3%80%8e%e3%83%8a%e3%82%a4%e3%82%b9%e3%83%94%e3%83%bc%e3%83%97%e3%83%ab%e3%80%8f/>)

2011年度

論文

① 『ニューアフリカン』から学ぶアフリカ

のエイズ問題」
「ESPの研究と実践」第10号78-89ページ 2011年3月30日

② 「エイズと南アフリカムベキの育った時代(四) アパルトヘイト政権の崩壊とその後」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 32 (2011年4月10日)

③ 「メディアと雑誌『ニューアフリカン』」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 33 (2011年5月10日)

④ 「雑誌『ニューアフリカン』」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 34 (2011年6月10日)

⑤ 「『ニューアフリカン』:エイズの起源(1) アフリカ人にとっての起源の問題」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 38 (2011年10月10日)

⑥ 「『ニューアフリカン』:エイズの起源(2) アフリカ人の性のあり方」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 39 (2011/11/10)

⑦ 「『ニューアフリカン』:エイズの起源(3) アフリカの霊長類がウィルスの起源」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 40 (2011/12/10)

⑧ 「『ニューアフリカン』:エイズの起源(4) 米国産の人工生物兵器としてのウィルス」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 41 (2012/1/10)

総説・翻訳

① 「Wamugunda Geteria 著『ナイスピープル』
(*Nice People*) 第二十九章 カナーン証明書」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 32 (2011年4月10日)

② 「Wamugunda Geteria 著『ナイスピープル』
(*Nice People*) 第30章 タラで過ごした一週間」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 33 (2011年5月10日)

③ 「Wamugunda Geteria 著『ナイスピープル』
(*Nice People*) 最終章」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 34 (2011年6月10日)

④ 「ジンバブエ滞在記 ①アメリカ1981～1988」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 35 (2011年7月10日)

⑤ 「ジンバブエ滞在記 ②ハラレ第1日目」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 36 (2011年8月10日)

⑥ 「ジンバブエ滞在記 ③突然の訪問者・小学校・自転車」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 37 (2011年9月10日)

⑦ 「ジンバブエ滞在記④ジンバブエ大学・白人街・鍵の国」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 38 (2011年1-月1日)

⑧ 「ジンバブエ滞在記 ⑤バケツ一杯の湯」
「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 39 (2011年11月10日)

- ⑨「ジンバブエ滞在記 ⑥買物」「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 40 (2011年12月10日)
- ⑩「ジンバブエ滞在記 ⑦ホテル」「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 41 (2012年1月10日)
- ⑪「ジンバブエ滞在記 ⑧グレートジンバブエ」「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 42 (2012年2月10日)
- ⑫「ジンバブエ滞在記 ⑨ゲイリーの家族」「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 43 (2012年3月10日)

報告書

- ①「シンポジウム『アフリカとエイズを語る』報告(1)」「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 42 (2012年2月10日)
- ② シンポジウム『アフリカとエイズを語る』報告(2)」「メールマガジン モンド通信 (MonMonde)」 No. 43 (2012年3月10日)
- ③ 玉田吉行「シンポジウム報告書「アフリカとエイズを語るーアフリカを遠いところと知っているあなたへ」(56ページ)

上記のメールマガジン「モンド通信 (MonMonde)」に掲載された「ジンバブエ滞在記」①～⑨は「玉田吉行の『ジンバブエ滞在記』にまとめてあります。

(<http://kojimatei.jp/wordpress/2011/09/10/%e7%8e%89%e7%94%b0%e5%90%89%e8%a1%8c%e3%81%ae%e3%80%8c%e3%82%b8%e3%83%b3%e3%83%90%e3%83%96%e3%82%a8%e6%bb%9e%e5%9c%a8%e8%a8%98%e3%80%8d/>)

[学会発表] (計1件)

- 1. シンポジウム『アフリカとエイズを語る』(2011年11月26日宮崎大学医学部)

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年月日：
 国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：

発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 取得年月日：
 国内外の別：

[その他]
 ホームページ等

「ノアと三太」(玉田吉行のWeb ページです)
<http://kojimatei.jp/tamada/index.shtml>

6. 研究組織

- (1) 研究代表者
 玉田 吉行 (TAMADA YOSHIYUKI)
 宮崎大学・医学部・教授
 研究者番号：80207232

- (2) 研究分担者 ()
 研究者番号：

- (3) 連携研究者 ()
 研究者番号：